

都道府県・ 指定都市番号	32	都道府県・ 指定都市名	島根県	研究課題番号・校種名	1 中学校
				教科名	社会
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○課題を追究したり解決したりする活動を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	<p>しまねだいがくきょういっくがくぶぎむきょういっくがっこう</p> <p>島根大学教育学部附属義務教育学校 (394人)</p>				
所在地 (電話番号)	〒690-0824 島根県松江市菅田町167の1 (0852-29-1300)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://www.shimane-fuzoku.ed.jp/fuchu/				
研究のキーワード	深い学び、問い、単元構造図、授業設計シート、概念的な知識				
研究結果のポイント	<p>○ 「授業設計シート」を作成することにより、学習内容に準じた焦点化された事例を考えた。さらに、その「焦点化された事例」より「単元を貫く問い」を作成し、「深い学び」の実現を図る授業改善を目指した。</p> <p>○ 三分野を見据えた「概念的な知識」の基に、「問い」と知識の質を対応させ、育成したい「思考力・判断力」を示した「単元構造図」を作成した。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「深い学び」を実現する”問い”づくり

～社会科の概念的な知識を活用した課題を解決する思考力・判断力の育成とその評価の在り方～

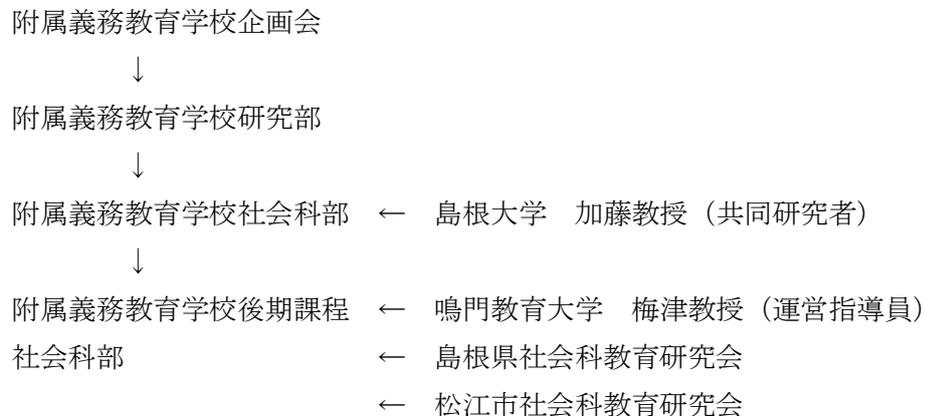
(2) 研究主題設定の理由

資質・能力の向上のためには、「深い学び」を実現する授業、とりわけその単元を貫く”問い”づくりが重要な課題である。本校は、平成29年・30年度の指定校事業で、「3分野の概念的な知識の系統化」、「単元を貫く問い」等を盛り込んだ単元構造図を作成して、“社会科の概念的な知識”の形成を試み、「深い学び」の実現を目指してきた。その中で“問い（問題）”は、多様な学習活動のきっかけであり、論述やレポート、発表、グループでの話し合い、プレゼンのような多様な活動のきっかけも、自らがもつ“問い（問題）”によるところが大きいことが明らかになってきた。

しかし、社会科の概念的な知識を活用して課題を解決する思考力・判断力を評価するまで、研究を進めることができなかったことから、新たに思考力・判断力を評価することで、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図る「指導と評価の一体化」に焦点を当て、研究を進める必要性を感じ始めた。

そこで本研究では、授業設計シートを用いて焦点化された事例より単元を貫く問いを設定することによって、どのような“問い（問題）”をもつことができれば、社会科の概念的な知識を活用して課題解決に向かうことができるかに焦点を当てて、思考力・判断力の育成と評価の在り方について考えて参りたい。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

令和元年	<1 学期>	
	○平成30年度の研究を踏まえた研究内容・方法及び計画の再検討	(島根大学訪問 加藤教授)
	・「問い」と「知識」、そして「思考力・判断力」の整理	(鳴門教育大学訪問 梅津教授)
	・「深い学び」を実現する授業づくり	
	・評価の在り方	
	<2 学期>	
	○社会科の概念的な知識の活用を必要とする問い（問題）の検討	(鳴門教育大 梅津教授)
	○授業設計シートの開発による授業改善	(鳴門教育大訪問 梅津教授)
	○授業設計シートを活用した授業実践	(11月22日 地理的分野 文科省 濱野視学官)
	○授業設計シートを活用した授業実践と評価の在り方	(鳴門教育大 梅津教授)
<3 学期>		
○実践事例のとりまとめ	(鳴門教育大訪問 梅津教授)	
○国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協会での実践発表・研究協議		

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○授業設計シートの作成

深い学びを実現する“問い（問題）”は、焦点化された事例（学習内容を象徴している例）に起因する、いわゆる単元を貫く問いであると考えられる。そこで、簡単なワークシート（「授業設計シート」）を考え、学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法の工夫改善を複数の教員で話し合いやすくしようとした。この授業設計シートの項目設定に当たっては、SNS等を利用して他校と

容易に話し合うことができることを考慮し、目標、学習内容、焦点化された事例、認識の視点、学習内容の構造化、問いの構造化の6つのみとした。

○知識の段階と“問い”方、そして思考力・判断力を対応させた単元構造図

“問い（問題）”は、多様な学習活動のきっかけであり、論述やレポート、発表、グループでの話し合い、プレゼンのような多様な活動のきっかけも、自らがもつ“問い（問題）”によるところが大きいのではないかと考えた。そこで、社会科における知識の段階と“問い”方を対応させ、そこで育成される思考力・判断力も単元構造図に示すこととし、単元構造図に示す概念的な知識は、現代の諸課題を解決する時に活用できる汎用性の高い知識を設定することとした。

（2）具体的な研究活動

○「授業設計シート（次頁左参照）」について

授業設計シートは、まず(1)学習主題、そして、その学習主題に対する(2)学習内容を学習指導要領、教科書、資料集等で決める。

次に、学習内容を(3)焦点化できる事例を探すが、できるだけ教科書、資料集等の、普段使用している資料から見つけ出すこととしている。次頁左の表は、令和元年11月22日に実施した公開授業の授業設計シートである。関東地方の焦点化された事例を「人口の回帰現象」にしている。

そして、この事例を基にして、教員が社会的な見方・考え方を、どのように働かすかを示したのが、(4)認識の視点である。地理的分野では、「社会的事象を、位置や空間的広がりに着目して」いるかという視点に立つ。

次に、(5)学習内容の構造化は、知識の段階を整理し、個別的な知識から概念的な知識へと、より汎用性の高い知識へつながるように示す。最後に、(6)問いの構造化は、単元を貫く問いは、焦点化された事例に端を発し、事例の意味や意義、特質等を答えることにした。

また、単元を貫く問いを解くためには、複数の問いが必要になり、問いの構造化が必要になると考え、問いの構造化に当たっては、焦点化された事例に関連のある問いで成り立つようにした。

○「単元構造図（次頁右参照）」について

単元を構成する時には、焦点化された事例を基に「単元を貫く問い」を、生徒自身が主体的にもつようになることが必要であり、そのような「単元を貫く問い」を解くための単元を構成することが必要となる。そこで学習内容の構造化と問いの構造化を対応させた、どのような思考力・判断力が育成できるかを示した単元構造図を作成することに力点を置いた。そこでは育成できる思考力・判断力は、単元の導入では「いつ、どこで、なにが」のような問いを考えることになり、そこから「なぜか」、次に「なぜ、そう言えるか」と深く考えることで、より高次の概念的な知識を獲得することになると考えた。また、最後に「単元を貫く問い」を解くことで、焦点化された事例の意味、意義、特質等を考える深い学びとなると考えた。

この単元構造図では、三分野の学習成果を視野に入れた最終的な概念的な知識を一番上位に示している。これは、現代の諸課題を解決するのに、汎用性の高い概念的な知識を到達点と考えたことによる。しかし、当然ながら本単元だけで到達できる知識ではなく、あくまでも指導側が三分野を見据えるための記載と位置付けている。

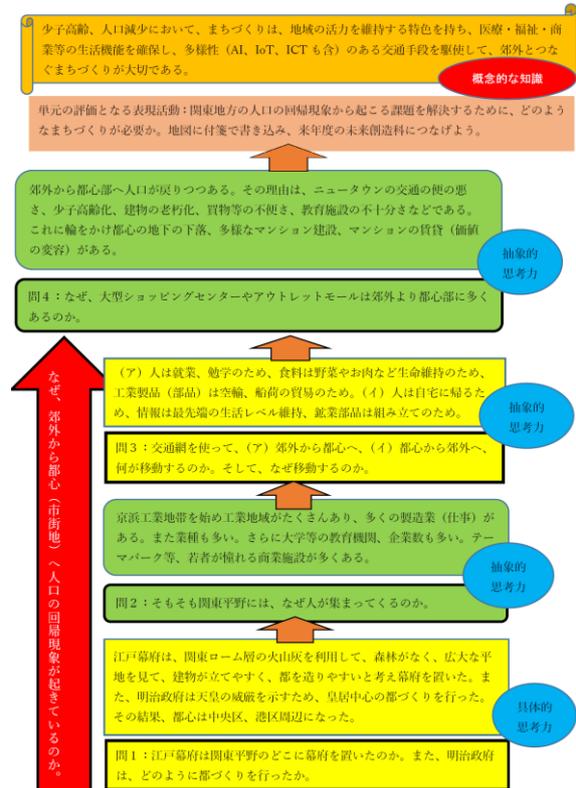
この図において、単元を貫く問いが解けた時に、単元の目的が達成され、単元が終了する。次頁の単元構造図では「なぜ、郊外から都心（市街地）へ人口の回帰現象が起きているのか」という設定である。本単元では、問4「なぜ、大型ショッピングセンターやアウトレットモールは郊外より

都心部に多くあるのか」という問いによって、「ニュータウンの交通の便の悪さ、少子高齢化、建物の老朽化、買物等の不便さ、教育施設の不十分さにより、郊外から都心部へ人口が戻りつつある」という概念的な知識に到達することで単元の目的が達成されたことになり、単元が終了することになる。

○授業設計シートの例(関東地方)

(1)学習主題	関東地方～人口、都市と村落～
(2)学習内容(構成概念)「～を理解する」	・少子高齢、人口減少において、まちづくりは、地域の活力を維持する特色を持ち、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、多様性(AI, IoT, ICTも含)のある交通手段を駆使して、郊外とつなぐまちづくりが大切であることを理解する。
(3)焦点化された事例「～を基に」	・「人口の回帰現象」を基に
(4)認識の視点(見方・考え方)	・次の視点で考察しながら、主題図に付箋を貼り、まちづくりをする。 ①各地域を活性化させる目玉(特色)があるか。 ②生活機能(建物)の確保ができているか。 ③まちの事情にあった多様性のある交通手段で都心と郊外につながりをもたせたか。 ④AI, ICT, IoTを活用できたか。
(5)学習内容の構造化(プロブレム・イシュー)	(1)郊外より都心へ、大型SCなどがあるのは、郊外から人口が都心部に流出しているからである。 (2)郊外の人口減少、少子高齢化による孤独死、買い物難民、建物の老朽化などが起き、都心部は埋め立てによる再開発が起きている。 (3)都心と郊外をつなぐ特色あるまちづくりを行う。
(6)問いの構造化	(1)そもそも関東平野には、なぜ人が集まってくるのか。 (2)交通網を使って、郊外から都心へ、都心から郊外へ、何が移動するのか。そして、なぜ移動するのか。 (3)なぜ、大型ショッピングセンターやアウトレットモールは郊外より都心部に多くあるのか。 (4)関東地方の人口の回帰現象から起こる課題を解決するために、どのようなまちづくりが必要か。

○「関東地方」の単元構造図



3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 授業設計シートを作成することで、学習内容に準じた焦点化された事例を考えることができ、また、それを基にして内容の構造化、問いの構造化を図ることで、確実に単元目標を達成することができた。授業設計シートは協議会等で素早く授業改善を検討できるシートであることから、複数の教員(学校)と協議を深めることができた。
- 単元構造図を作成し、問いと知識の質を対応させることで、育成したい思考力・判断力を教師が明確にもって授業に取り組み、それらを段階的に育成できる可能性を見いだすことができた。
- 授業設計シートに内容や問いの「構造」が見えにくいため、内容の書き表し方の吟味と内容と問いのレイアウトの工夫が必要である。
- 単元構造図を基に、思考・判断の軌跡を残すことで、思考力・判断力の育成の評価を位置付けることを検討する。

4 今後の取組

- 単元構造図を基に、思考・判断の軌跡を時系列で残すことで、生徒の思考力・判断力の育成を見取る評価の在り方を検討する。
- 複数の教員(学校)で単元の授業づくりを協議する機会を充実させ、引き続き授業改善に向けた協議も深める。